

---

# 透析室における受け持ち制看護の検討 情報収集用紙を活用して

渡部静子、斉藤典子、深沢春美、岩城庸子、嶋津由美子、後藤真喜子、  
鈴木一正、佐藤 勝、斉藤義博  
公立角館総合病院透析室

## Study of person to person Nursing In a Dialysis Center Utility of data collection paper

Sizuko Watanabe, Noriko Saitou, Harumi Fukasawa, Youko Iwaki, Yumiko Simazu, Makiko Gotou  
Kazumasa Suzuki, Masaru Satou, Yoshihiro Saitou  
Dialysis Center Public Kakunodate General Hospital

### <Ⅰ はじめに>

我国の透析患者数は20万人を超えており、透析患者の高齢化、糖尿病性透析患者の相対的な増大と重症化、長期透析患者の増加により、合併症を有する患者が増加し多様化してきている。当院においてもこの傾向は同様である。

透析に従事する看護師の役割は益々大きくなり、導入期の看護、維持透析による合併症予防と対策、また透析者自身が管理出来るよう指導等と幅広い看護が求められる。

以前は透析患者が満足する看護を提供するにあたり看護師2名で1名の透析患者を受け持っていたが「スタッフの言うことが、まちまちでどれを信じていいのか判らない。」と、一部の透析者から不平不満があり、従来の方法では、情報・問題点がスタッフ間で効率よく共有されることが少なく、受け持ち以外の情報を把握するのが困難だった。

そこで、看護師1名に対し透析患者1名の受け持ちとし、より透析者の情報・問題点を明確にし共有出来るように用紙を作成し、医療スタッフ間で統一した看護を提供できるよう試みたのでここに報告する。

### <Ⅱ 研究方法>

方法：1 受け持ちについて

- 1) 看護師1名に対し透析者1名の受け持ちとし、看護師1名で約8名を担当
- 2) 受け持ち看護師が、担当透析者の日常生活状況を、情報収集用紙に記入。
- 3) 解決すべき問題点を抽出し、看護を行い、継続できるように伝達。
- 4) 月2回の定期検査のデーター説明と生活指導とその内容を記入。

2 情報用紙について

- 1) 情報収集用紙①を考案・作成し、H14年4月22日～5月31日まで使用。

透析経過記録表に組み込み、透析毎の経過を記入。

2) 透析経過記録用紙の、看護記録・処置欄の充実と、連絡事項欄の活用。

3) 情報収集用紙①の評価をし、情報収集用紙②を考案作成し、H14年6月10日～8月31日まで使用。

4) 看護計画用紙を考案作成し、使用検討中。

期 間：H14年4月15日～8月31日

場 所：公立角館総合病院 透析室

対 象：当院で人工透析療法中の透析者50名

### <Ⅲ 結果>

現在、透析室では機能別に業務を分担しながら、受け持ち制を取り入れることにした。その結果、透析患者へ声かけをする機会が増え、信頼関係を得ることができ、透析者の抱えている問題を把握し、早期に対処出来るようになった。情報収集用紙①では、透析日毎の記入は大変であり、得た情報から問題点を知る上で、欄が狭く整理されていなかった。そのため透析時間内に、スタッフに問題点を明確に指示する時間的余裕がなく伝達も困難だった。そこで、情報収集用紙②を作成し、透析毎の記入から、問題の所在と経過をはっきり示す記録に変更してみた。情報収集用紙②と看護計画用紙を活用し、問題点を提示することで、他の医療スタッフにも伝わり、それを解決する為の情報得られるようになった。患者指導の際、情報収集用紙を共有することで、指導内容が統一され、継続性のある看護が提供できるようになった。しかし、問題点が明確になるにつれ、看護師一人一人が抱える負担がおおきくなってきている。

透析者からは、自分の担当が決まっているので安心して話しやすい、指導内容に疑問を持たなくなったという声が聞かれた。反面、透析者の見える所に用紙がある為、自分の訴えが、治療に対する不満と受け取られないかと、懸念する人もいた。

#### 情報収集用紙①

( )月				氏名		様	
日	日	日	日	コメント			
日	日	日	日				
日	日	日	日	日	備考		

情報収集用紙②

( )月		氏名		様
日	S · O		A · P · 備考	

看護計画用紙

看 護 計 画 ( )

患者氏名		病名及び治療方針			
様		慢性不全による血液浄化法(HD・HDF)			
問 題 リ ス ト					
#1 体重	#2 検査	#3 薬物	#4 フラッド・アクセス	#5 その他	
看護目標					
月/日	問題点	月/日	具体策	月/日	結果・評価

<IV 考察>

透析者は、一生透析から解放されることのない抱束感を持ち、さまざまな不安を持って社会生活を送っている。安定した治療生活を送るためには、適切な治療法、自己管理、規則正しい生活や、家族の協力や支え、また社会の支えが必要である。1) そのためには、透析者や家族の悩みに素直に耳を傾け、共感できる姿勢が大切であると考えます。また透析室に自分を支えてくれる人がいることを知るだけでも心強いと思われる。看護師が得た情報を医療スタッフが共有できるよう、記録の整理や連絡を密にすることが大切である。このことは今後生じる問題を予測する上でも重要である。

---

情報収集用紙と看護計画書の充実を図り、医療スタッフが一丸となって、透析者の肉体的、精神的QOLが向上するよう問題解決に、取り組みたいと思う。

<Ⅴ 終わりに>

今回、受け持ち看護を試みて、個々の透析者の問題点を情報用紙に記入することで、問題が明確になり、医療スタッフとも共有でき、有効に活用することが出来た。更に看護を充実させるために記録方法の検討が必要であり、今後の課題である。また受け持ち看護師の負担の軽減を図る上で、月一回のスタッフミーティングの活用も検討していきたい。

引用文献・参考文献

- 1) 村地祐子：透析ケア VOL.1 Number.4 P47 メディカ出版 1995
- 2) 南 祐子：看護における研究 日本看護協会出版会 1991
- 3) 日野原重明/井部俊子：看護にいかす POS 医学書院 1996
- 4) 透析治療従事職員研修会資料 2002